

## 第6回三次市行財政改革推進審議委員会会議要旨

平成26年5月19日  
15:00 から 17:00  
市役所東館2階会議室

- 出席：橋本会長，堀江副会長，湯藤委員，富野井委員，廣中委員，安藤委員，  
新宅委員，新藤委員，山根委員
- 事務局：藤井部長，新田課長，奥野主任

### 【大綱の作成について】

- ・平成26年9月議会で大綱の基本的な方向性を出していきたい。
- ・次にできる大綱もページ数は前回程度を想定している。内容を変えて良い部分，変えてはいけない部分というものは，特にない。
- ・大綱は市が定めるが，審議委員会はそれに対して意見や提言をするという立場。
- ・「提言」とはどのように行うのか。大綱の「初めに」は市，「背景・必要性」は会の議論。新たな視点は議論しても良い。
- ・重点項目は市が考えると言われたが，審議委員会で考えると出てくるかも。審議委員会の気持ちが入るかも。

### 【大綱の新たな視点・サブタイトル】

- ・大綱のサブタイトルや「新たな視点（新しい公共）」をどのようにしていくか，が当面の課題。
- ・取組の工夫がどんどん起きてくるように。市役所がどんどん変わっていくようになるために，サブタイトルや新たな視点はこうすべき，と提言することが大事。
- ・新たな視点をどのように出していくかが肝要。
- ・サブタイトル，「みんなで」は漠然としている。市民のことか？
- ・色々な変化が続いていて，こう着状態にならないように。無理なく続けられるような，変化を起こせるような，動きのある組織。
- ・行革審議委員会らしい，わかりやすい，みんなが工夫してもらえそうな言葉。
- ・小さい子どもでもわかるような，わかりやすい言葉で。
- ・行政のスリム化のための新しい公共になっていないか。学校がなくなり，消防団がなくなり。地域も縮小。そこへ新しい公共がきたら，市民がどう参加するのかイメージがわからない。
- ・中心部はそうでもないが，周辺部は地域の衰退が早い。そのために支所にはがんばってほしい。職員の動きが大事。スリム化も良いが，スリム化のギャップを埋めるのが新しい公共になっていないか。
- ・やりたいことを何かのキーワードにまとめたら，新たな視点になるのでは。重点項目のやりたいことをざっとだして共通項を出してみたら。それがふさわしいものであれ

ば、新たな視点になるのではないか。例えば郷土を愛する公共??

- ・(新たな視点に)「公共」という言葉を使うこと自体、それが良いのかどうか。
- ・重点項目の言い換え等、見ていけば新たな視点につながるかも。
- ・公共の守備範囲が拡大している。若い世代が高齢者を支える。若者が減ったから大変だというのが、必ずしも高齢者が支えられるわけではない。むしろ高齢者の方が元気で余裕があることもある。豊かな高齢者が貧しい高齢者を支えても良い。余裕(物質的、精神的余裕)のある人が地域づくりを担っていく。行政を手伝っていくこと。もっと柔軟に考えられる。「死に甲斐のあるまちづくり」行政には受け入れられないが、民間人には受け入れられる。出て行った人が帰省して死ぬ。最期を迎えるのは三次がいいな、と思えるまちづくり。そのために、高齢者対応型のモデル工場等、高齢者に仕事がある状態を生み出す。前向きな意味での「死に甲斐のあるまちづくり」。
- ・行政の各部局がよりよく工夫していくためにやっていくのが行革。本当に社会のためにやっているのが行革。これが各部署で議論されていくことで行政が変わっていくことが望ましい。

#### 【新しい公共】

- ・自助、共助、公助と互助。共助は保険。公助は行政。互助は地域。ただし、市民に対しては「自助・共助・公助」はやめた方が良い。「行政はお金がないから、何とか地域でお願いします」と聞こえる言い方が問題。みんなが納得できるお金の使い方を考えるのが行革。
- ・「新しい公共」は間違っていないが、行政の逃げに聞こえないような言い方。励みになるような視点。
- ・反発されない言い方はないか。行革は単にケチることではなく、いろんなアイデアがどんどん出てくる。住民に行政の肩代わりをしてくれと言うのではなく、一緒にやっていこうというイメージ。
- ・自分らでできないことは市に。できることはみんなで。でいいと思う。
- ・「新しい公共」は、(仕事を)引き受けるイメージがあるが、もともと地域には自ら課題解決をする機能があった。地域でできないことは行政が行う。その代り税金を払う。
- ・地域でしないといけないこと。「新しい公共」は、もともとあったものを取り戻す、という感覚で進めてはどうか。
- ・市道草刈、昔はみんな手弁当でやっていたが、合併したら1㎡当たり10円の補助金がもらえるようになった。必要ないと思うのだが・・・。
- ・家族の関係も変わっている。かつて、年金制度は「親との縁を切るためにお金を払う。そうでないなら、親の面倒を見ましょう」ということで、昔はみんな家を継いで親をみていたので年金は必要なかった。
- ・新しい公共。「新しい」がつくとよくわからない。

#### 【総合計画と行革大綱】

- ・総合計画は三次市の姿を描く。行革大綱は市役所の姿、住民とのかかわり方、財政の

在り方。進め方。取り組み方の話。ゴールは総合計画。もとは、まち・ゆめ基本条例。総合計画を実現するために行政はどうあるかを考えるのが行革。

- ・行革大綱をどのようにしたら良くなるかを考えるのが審議委員会の使命。

#### 【意欲的な取組実績について】

- ・色々な取組は素晴らしいと思うが、大体に、取組をやろうと決めるのはいつなのか。思い切ったことをするには予算がいる。思い立ったらすぐにできる予算はあるのか？例えば iPad の購入等は、企画から実施までどのくらいかかるのか。  
⇒ お金の不要なものは、判断をすればすぐに実行できるが、予算を伴うものは基本的に予算要求して次の年に実行することになる。
- ・以外に頑張っていると思う。工夫している。このような取組をホームページで見られるようにしたらどうか。例えば、分類別、部署別等で見せていくことが、やっている人の励みになると思う。
- ・すばらしい取組と感心している。これだけやっているということは、他にも多々やりたいことがあると思う。失敗や課題、やりたいこと等を教えてもらえば、審議委員会として良い提言ができるのではないかな。
- ・市役所の取組をいろいろ見ると、これが良いからもっと伸ばして、こういうところが評価される視点が、という提言をしていきたい。
- ・工夫の背景に理由がある。取組を応援していくことが委員会の役割。こういうことをめざしていきたい。
- ・結構やっていると思う。全国大会で発表した取組や、他市からの視察が来る等もあるが市民は知らない。公開して市民が入ってくる仕組みがある。発表会をして市民もよんだらどうか。職員もやる気になるのでは。
- ・取組を聞いてみて良かった。頑張っている人に光をあてるのが大事。一人ひとりが工夫して頑張っていると思う。いいことをやっているつもりでもそうじゃない、という意見もある。こっちの方がもっと良いという意見もある。こういうやりとりが、より市役所を良くしていくと思う。

#### 【行財政改革の取組】

- ・市の部局長、支所長が率先して変化を起こす、チャレンジしていく姿勢がある。
- ・「本当に大事なものは何か」を考え、集中していくのが行財政改革。
- ・鳥取県日野町で、タブレット端末を町議会に配布した例を聞いた。議会LANを三次市は導入済。ペーパーレスになる。議会資料印刷の事務負担軽減につながる。年配議員でも練習して中々うまくいっているようだ。タブレット利用も良いと思った。
- ・各支所の取組に興味がある。同じ三次市でも支所のことを知らない。支所ががんばっていると思う。広報みよし、遅いので見たいときに情報があればよい。
- ・三次市の広報は大切にしたい。若い人はタブレットでもいいが、年配の人には、紙の広報は大事にしたい。情報発信の仕方を考えていけたらいい。
- ・自社では、3か年計画を出している。10年先の地域の中でどうありたい。を出す。3

年の中で年 2 回のヒアリングしている。毎年すべきこと、3 年後に成果を出したいこと。3 年後の到達点を明確に持っていないといけない。

- ・今年すぐにできること、2・3 年でやること、分けてやっていく。そういうことを考えていくこと、軸になるのがサブタイトルや視点になると思う。
- ・それぞれよくやっていると思う。職員が一番問題点を分かっている。こういう問題にこういう取り組みをしていることをもっと知らせたらよい。
- ・新しい公共は、見方を変えたと、行政が逃げているとも受けとられる。逃げの姿勢を見られないため工夫がいる。
- ・個別外部監査は、年 350 万円かかっている。もったいないと思う。市の第三セクターで役員まで送っておいて、350 万円投資することがもったいないと思う。監査対象の第三セクター二社はいずれも優良なのに、何のためにするのか意味が分からない。

#### 【社会の変化】

- ・子ども達にネット授業はどの程度進んでいるのか興味がある。学校の授業を録画して自宅で復習しているようだ。教育の現場が変わってきている。
- ・学校の予習を事前にタブレットでやらせて、当日、授業を受けさせるというやり方もあるらしい。家で遊べないなと思った。
- ・若い人が集落にいなくなってきたときの地域の在り方、誰が担い手になるのか。

以上